

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓生会		
事業所名	グループホーム モンサン時津 (1F)		
所在地	西彼杵郡時津野田郷757-1		
自己評価作成日	令和7年9月10日	外部評価結果確定日	令和7年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者様には健康的に長生きを目標していただき、いつまでもイキイキと施設で生活をしていただく。そのため、施設全体とかは拘らず、ユニット別、個人での対応を積極的におこなっていくことを方針に掲げ、入居者の笑顔が多く見られるようイベント、楽しみ時間を増やすことに力を入れている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に加え、2024年度からは「Smile Make Smile」というスローガンが掲げられている。更にスローガンをかみ砕いた、啓正会地方創生2025という6つの柱を立て、分かりやすく達成しやすい内容となっている。
各ユニットの共用部分の飾りつけは、ユニットごとに任されており、居室の入口や季節に応じた装飾飾を工夫している。
ユニットケアと並行しながら、個別ケアを重視し、入居者本人の意向を確認しながら対応しており、意向を聞くだけでなく、可能な限りで実現できるよう取り組んでいる。

【評価機関概要】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年10月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に事業所理念にも落とし込み作成している。管理者、職員共に事業所理念を共有しながら、業務は実施している	法人の理念をもとに、「やるぞやるぞやるぞ Smile Make Smile」というスローガンが掲げられている。このスローガンを達成するために、①健康長寿日本一、②お楽しみ時間の支援、③金融リテラシーの向上、④医療福祉従事者の地位向上、⑤共生社会の実現に加え、今年度より⑥元気プロジェクトが追加された。①の健康長寿日本一を達成するため、入居者が長生きできるよう思いやりの介助を心がける、②のお楽しみ時間の支援をするために、楽しいことを沢山体験してもらうよう職員に企画をあげてもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としての地域との関わりが充分とは言えないものの運営推進会議を通し、敬老会や運動会に参加し交流の機会は増えている	地域の敬老会に招待され、今年度は2名の入居者が参加している。また時折、近所の方が、タケノコやジャガイモ、薔薇を持参して下さることがある。できるだけ地域の行事等に参加してみたいが、感染症の不安もあり、状況を見ながら対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までとはいかないが、認知症の方も施設では尊厳は確保され、個々にあった生活を支援していることを面会や施設で運営推進会議を開くことで直接、見て理解に役立っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告の中で入居者様の活動も報告している。自治会、民生委員の方にも参加していただき外部からの意見も聞き、サービス向上に活かしている	年6回、対面にて運営推進会議を行っている。会議の内容は、入居状況、委員会内容報告、行事報告等、事業所から報告をすることが多いとのことである。自治会長や民生委員からは、「入居者の男女比率や、職員の人員、外国人の職員」について質問されることがあり、時津町役場職員からは、近隣公園や、高齢者が集うカフェの案内がある。管理者は、自治会長や民生委員と会う貴重な機会と捉えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、入・退去の実績は報告している。運営推進会議でのケアサービスの取り組みの報告を定期的にも実施。同時に他の件についても役場の担当者と密に連絡を取り、協力関係構築に務めている	運営推進会議に時津町役場の職員が参加をしており、連携はとれている。また、認定更新や問合せがある時には、すぐに相談ができています。生活保護に関しては、西彼福祉事務所へ問合せをしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の全体での身体拘束防止勉強会を開催し、全職員への理解、意識付けをおこなっている。新人の方にも管理者から説明をおこない、日頃から職員全員で同意のない拘束は虐待にあたるという事を確認し身体拘束のない介護サービスに取り組んでいる	年2回、身体拘束に関する研修会を実施し、毎月、身体拘束及び虐待防止委員会を開催している。事業所として「身体拘束を行わない」方針を掲げており、身体拘束に頼らずに対応できる方法を検討しながら支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待防止委員会を中心に勉強会を開催し理解を深めている。外部の研修にも参加し知識をたかめ虐待防止に務めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で権利擁護に関する制度について開催されているが、一般介護職員の参加が充分には出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際には、入居者やご家族に対して「契約書」と「重要事項説明書」を読み上げ、十分な説明を行っている。入居者や家族からの不安や疑問には具体的に答えるように務めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは日常の会話から要望を聞くようにしている。またご家族からは面会時や電話での連絡時に要望等を伺うようにしている	コロナが大流行していた時期は、窓越しでの面会対応を行っていたが、現在は面会制限を設けておらず、毎日面会に来る家族もいる。職員は家族と密に連絡を心がけており、重要な連絡は管理者が対応しているが、消耗品の購入依頼等日常的な連絡については、ユニットリーダーや、主任が対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の場を設け管理者も現場に入り、日常的に相談しやすい風通りの良い環境づくりを心がけている。運営的な意見を聞く場というのは特に定めていない	管理者と職員が1対1で面談を行う機会は設けていないが、必要に応じて職員からユニットリーダーや管理者には相談がある。管理者は職員の自主性を尊重しており、職員からイベントの企画の提案があった場合は、原則として断らずに前向きに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、人事評価するようにしている。また年に3回能力開発面談を行い、管理者・代表と個別で話す機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育として「NIはーと」事業を開催し新人教育の一環として実施している。また管理者を中心に個々に合わせたトレーニングをしている。対象者には実務者研修受講へのサポート実施も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入により同業者と交流する機会を作り、情報交換などをおこなう事でサービスの向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、管理者・ケアマネジャーが本人・ご家族の方と面談をおこない不安な事や困っている事などに耳を傾け、出来る限り本人や家族の希望を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時に、ご家族の困っている事や不安な事に耳を傾け、受けとめるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の生活環境や身体状況の情報収集を行っている。その中で、本人に最も必要なサービスを見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の日常生活の中で、体調を考慮し出来ることを職員と一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に電話での連絡をおこないご家族の方の要望を聞き、支援の変更や検討したいことなど相談を行い協力を仰ぐようにし共に本人様を支えていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた家族・知人、場所などとの関係が継続出来るよう、必要に応じ可能な範囲で支援に努めている	以前、馴染みの理髪店へ通っていた入居者もいたが、現在入居されている方は全員、事業所に訪問する理美容サービスを利用している。墓参りを希望された入居者は、個別ケアとして職員が連れて行ったこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもりたり孤独にならないよう関わりを持つように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院等へ転院された場合でも必要に応じて相談できる体制をとれるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先に考えご希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から言葉掛けし表情などからも見極め把握に努め、入居者本位のケアができるように努めている。	2025年度のスローガン「やるぞやるぞやるぞ Smile Make Smile」の中の一項目に「お楽しみ時間支援」がある。職員は時間がある時は、入居者とのコミュニケーションを図る様にしている。入居者が望んでいる事を聞き取り、職員間で共有している。出来ないと決めつける事がない様に家族と協力し、少しでも楽しみある時間が作れる様に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報および面談時に得た情報は入居前にケア会議で共有している。入居後に得られた情報においてもカルテを利用し情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の身体状況や生活リズムを理解し、本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の心身の状態や細かな変化に気付くよう意識し、援助をおこなっている。職員から収集された情報を基に現状に即した介護計画の作成はおこなっている	介護計画を作成する時は、入居者、家族が望んでいる事について聞き取りを行う。また、ケア会議を開催する前には、職員全員より気付いた点について書面で提出をもらい、課題を抽出する。課題について、ケア会議で検討し、今後の計画書に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践しているケア、その他個人記録の情報を職員間で共有し、入居者にとってより良いケアの提供のため、これらを活かしながら介護計画の見直しなどは役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族のニーズには常に可能な範囲では柔軟に対応しているが、家族対応が必須の場合は家族で対応していただいている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源把握には日々の業務の中から知識として把握に努めている。地域資源を上手に活用しながら安全で充実した施設生活を楽しんでいただけるよう支援には努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明をおこない、納得の上でかかりつけ医の変更もおこなっている。また、別のかかりつけ医を希望された場合においても臨機応変に対応している。	入居する際に、協力医療機関について説明を行い、入居者、家族の承諾の下、変更している。夜間、体調不良を認めた時は、協力医療機関の看護師と連携を図り対応している。協力医療機関で対応が難しい診療科への受診は、基本的には家族が同行している。受診前に、日頃の状況について家族へ説明し、受診がスムーズにいく様に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員より得た日々の情報は、随時訪問看護師にも報告し情報共有に努めている。必要に応じ主治医へ相談し、迅速かつ適切に医療を受けられる体制で支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報共有は密におこない、入院中の入居者様の状態確認や退院時の情報提供などで支援を受けている。安心して治療を受けいただけるよう医療機関との関係作りには力を入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針については入居時に重度化した場合、終末期の在り方(ACP)について家族に確認している。協力医療機関とも情報共有に努めている。施設生活が可能状態についても説明し方針の共有に努めている	法人の意向として、事業所での看取りは行わない方針である。入居の際に、重度化した時、終末期の在り方(ACP)について、入居者、家族へ確認している。重度化した時は、主治医より家族に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生における初動、応急手当含め勉強会にて知識向上には努めている。軽度な創傷については業務の中で対応方法を実践しながら身に付けていただいている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対しては年2回の避難訓練を行い非常時に対応する準備はおこなっている。地震・水害の非常時対応はBCPを基に机上・実動訓練を実施。災害発生時に業務が継続出来る知識を習得する機会を設けている	年2回昼夜想定避難訓練を実施している。自然災害については、BCPを基に、連絡手段、災害時の必要物品、簡易発電機の操作方法、貯水槽の役割、トイレの準備、処理方法等について訓練を実施している。消防設備等については、業者が定期的に点検を行っている。各居室は防災カーテンを使用している。備蓄品は法人の管理栄養士が管理しており、食材や水分など3日分を確保している。	万一の際に備え、地域の消防団との協力体制を構築する事が望まれる。年2回実施される避難訓練に、地域の方が参加し、避難ルートや避難方法を理解してもらう様に、働きかける事も大切である。今後の取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳とプライバシーを損なわない対応を心掛けている。基本的なマナーについても研修等を通し身につけてもらっている	身体拘束・虐待防止について、事業所内で研修を行っている。研修会では、「認知症への理解を深め虐待を防止する。」をテーマに、事例をあげて、対応策について検討されている。色んな対応策を習得する事で、気持ちに余裕を持って、支援できる様になる。日々の支援の中で、言葉遣いに注意を払い、入居者の視線に合わせた対応ができる様に理解を深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自由に選択できるような対応を心掛けている。言葉で意思表示が困難な入居者には表情やふとした行動からくみ取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課は決まっているが体調や気分によって入居者一人ひとりのペースに合わせている。基本的には本人の希望を優先し希望に沿った支援をおこなうよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方はご自分で選択できるように支援しているが、選べない方も多いため本人の意思を確認しながら一緒に決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けを入居者に手伝ってもらう場合もある。基本メニューが決まっているが、時々入居者様の嗜好品を確認し、メニューにも取柄れている	法人の管理栄養士が献立を作成している。献立に沿った食材が届き、職員が調理している。お正月、2月1日の開園記念日などは、職員が入居者よりリクエストを聞いて、メニューを考えている。開園記念日は、お刺身が提供される。アレルギー、ミキサー、刻み、糖尿病食、減塩など対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面で栄養管理についてはメニューを管理栄養士が作成。バランスの良い食事を提供させていただいている。水分補給は入居者の状態に合わせ適宜おこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアはおこなっている。要介助者は職員が対応。入れ歯は夜間漬け置き洗浄をおこなっている。必要に応じ定期的に訪問歯科を受けていただき、口腔内の清潔に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々にあった時間にトイレ誘導を行うよう務めている。出来る限り自立した排泄ができるよう支援している。	各居室にトイレが設置されている。入居者の排泄パターンに合わせて、パット類の検討や、介助の方法など検討し、自立した排泄ができる様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握は重要視している。また、排便コントロールについても協力病院と常に情報を共有をしており下剤の管理もおこなっている。便秘予防のみならず、出来るだけ体を動かす機会も設けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は固定しているが入居者の体調や気分により変更し可能な限り、希望に添えるように支援している。また、身体レベルに合わせて機械浴も活用している。	入浴は週2回を基本としている。各ユニットで曜日が決められているが、体調不良時は曜日を変更し対応している。3階のユニットに機械浴があり、車いすの入居者も浴槽に浸かる事ができる。また希望があれば、シャンプーや石鹸の持ち込みにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は都度意向を確認し、支援している。夜間消灯の時間は決まっているが、入居者の希望があれば眠くなるまでフロアで過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を活用し、薬の目的や副作用、用法や用量の理解している。服薬の支援と症状の変化の確認には配慮するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態・生活歴などを参考に楽しみとなるの事を一緒に探している。一人ひとりの出来る事を把握し、生活の中に役割を持って生活していただけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応、家族対応、各ユニット別で外出支援はおこなっている。個別では買い物、カフェなど希望を叶えてあげられるよう努めている。ユニット別では遠方に見学、近距離ドライブを実施。気分転換を兼ねておこなっている。	居室内に閉じこもる事なく、行きたい所を聞き取り、希望がかなえられるように、家族と協力し対応している。個別では、墓参りや衣服の買い物支援を行った事例がある。また、ユニット別では、近くの公園にドライブ、12月には芋ほりが予定され、楽しみある生活が送れる様に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ事を希望される場合には、少額での所持をお願いしている。お金を使う機会がある場合には使えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ携帯電話の所持も許可している。必要に応じ施設の固定電話でご家族との通話はおこなっている。必要あれば手紙作成の支援、郵送の支援も実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境が入居者にとって快適な空間であるように日々の環境整備にも努めている。温度や湿度なども細目に確認し、快適に過ごしやすい環境を提供出来るよう心掛けている	各ユニットの入口を入ると、広いフロア、大きい窓が目に入り明るい空間である。広いフロアのサイドに、各居室があり、目が届きやすい。壁には季節の飾り付けを入居者と一緒に行っているユニットもある。フロア内に台所があり、職員が調理する姿を見ることが出来る。毎日フロアの掃除をしており、手すりやテーブルなどの共用部分は、アルコール消毒を行い感染対策をしている。各居室の室温や湿度などは、職員が管理している。	汚物をフロアから見えるベランダのごみ箱に破棄している。食事をする際に、席の配置次第では、ごみ箱が見えている。不快を感じる事がない様に、ごみ箱の置き場について検討することを望む。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテレビ設置し、入居者が気軽に集まりコミュニケーションを図れる場所にして		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が居心地の良いものになるよう、生活で使用するものについても入居前から使用され、使い慣れた物を可能であればご準備していただいている	各居室には、洗面台、トイレ、整理タンス、ナースコールを備えている。電動ベッドをレンタルし、起居動作がしやすい様に工夫されている。入居者によっては、使い慣れた筆筒や鏡台、ぬいぐるみなどを持ち込んでいる。また、壁には、手作業で作った作品を飾ったり居心地よく過ごせる様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能レベルに応じ援助方法なども工夫している。自立した生活を長く送っていただけるよう、必要に応じた福祉用具を選び使用していただいている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津(2F)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757番地		
自己評価作成日	令和7年9月1日	外部評価結果確定日	令和7年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者様には健康的に長生きを目標にさせていただき、いつまでもイキイキと生活をしていただく。そのため、施設全体とかには拘らず、ユニット別、個人での対応を積極的におこなっていく事を方針に掲げ、入居者様の笑顔が多く見られるようイベント、楽しみ時間を増やす事に力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jlgvsvocd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年10月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に事業所理念にも落とし込み作成している。管理者、職員共に事業所理念を共有しながら、業務は実施している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としての地域との関わりが充分とは言えないものの運営推進会議を通し、敬老会や運動会に参加し交流の機会は増えている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献まではいかないが、認知症の方も施設では尊厳は確保され、個々にあった生活を支援していることを面会や施設で運営推進会議を開くことで直接、見て理解に役立てている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告の中で入居者様の活動も報告している。自治会、民生委員の方にも参加していただき外部からの意見も聞き、サービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、入・退去の実績は報告している。運営推進会議でのケアサービスの取り組みの報告を定期的にも実施。同時に他の件についても役場の担当者と密に連絡を取り、協力関係構築に務めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の全体での身体拘束防止勉強会を開催し、全職員への理解、意識付けをおこなっている。新人の方にも管理者から説明をおこない、日頃から職員全員で同意のない拘束は虐待にあたるという事を確認し身体拘束のない介護サービスに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待防止委員会を中心に勉強会を開催し理解を深めている。外部の研修にも参加し知識をたかめ虐待防止に務めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で権利擁護に関する制度について開催されているが、一般介護職員の参加が充分には出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際には、入居者やご家族に対して「契約書」と「重要事項説明書」を読み上げ、十分な説明を行っている。入居者や家族からの不安や疑問には具体的に答えるように務めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは日常の会話から要望を聞くようにしている。またご家族からは面会時や電話での連絡時に要望等を伺うようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議の場を設け管理者も現場に入り、日常的に相談しやすい風通りの良い環境づくりを心がけている。運営的な意見を聞く場というのは特に定めていない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、人事評価するようにしている。また年に3回能力開発面談を行い、管理者・代表と個別で話す機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育として「Nは一と」事業を開催し新人教育の一環として実施している。また管理者を中心に個々に合わせたトレーニングをしている。対象者には実務者研修受講へのサポート実施も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入により同業者と交流する機会を作り、情報交換などをおこなう事でサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、管理者・ケアマネジャーが本人・ご家族の方と面談をおこない不安な事や困っている事などに耳を傾け、出来る限り本人や家族の希望を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時に、ご家族の困っている事や不安な事に耳を傾け、受けとめるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の生活環境や身体状況の情報収集を行っている。その中で、本人に最も必要なサービスを見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の日常生活の中で、体調を考慮し出来ることを職員と一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に電話での連絡をおこないご家族の方の要望を聞き、支援の変更や検討したいことなど相談を行い協力を仰ぐようにし共に本人様を支えていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた家族・知人、場所などとの関係が継続出来るよう、必要に応じ可能な範囲で支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもったり孤独にならないように関わりを持つように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院等へ転院された場合でも必要に応じて相談できる体制をとれるよう努めて+D4+D49:E63		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先に考えご希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から言葉掛けし表情などからも見極め把握に努め、入居者本位のケアができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報および面談時に得た情報は入居前にケア会議で共有している。入居後に得られた情報においてもカルテを利用し情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の身体状況や生活リズムを理解し、本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の心身の状態や細かな変化に気付けるよう意識し、援助をおこなっている。職員から収集された情報を基に現状に即した介護計画の作成はおこなっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践しているケア、その他個人記録の情報を職員間で共有し、入居者にとってより良いケアの提供のため、これらを活かしながら介護計画の見直しなどは役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族のニーズには常に可能な範囲では柔軟に対応しているが、家族対応が必須の場合は家族で対応していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源把握には日々の業務の中から知識として把握に努めている。地域資源を上手に活用しながら安全で充実した施設 D52+D64:E77		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明をおこない、納得の上でかかりつけ医の変更もおこなっている。また、別のかかりつけ医を希望された場合においても臨機応変に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員より得た日々の情報は、随時訪問看護師にも報告し情報共有に努めている。必要に応じ主治医へ相談し、迅速かつ適切に医療を受けられる体制で支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報共有は密におこない、入院中の入居者様の状態確認や退院時の情報提供などで支援を受けている。安心して治療を受けていただけるよう医療機関との関係作りには力を入れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針については入居時に重度化した場合、終末期の在り方(ACP)について家族に確認している。協力医療機関とも情報共有に努めている。施設生活が可能なる状態についても説明し方針の共有に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生における初動、応急手当含め勉強会にて知識向上には努めている。軽度な創傷については業務の中で対応方法を実践しながら身に付けていただいている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対しては年2回の避難訓練を行い非常時に対応する準備はおこなっている。地震・水害の非常時対応はBCPを基に机上・実動訓練を実施。災害発生時に業務が継続出来る知識を習得する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳とプライバシーを損なわない対応を心掛けている。基本的なマナーについても研修等を通し身につけてもらっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自由に選択できるような対応を心掛けている。言葉で意思表示が困難な入居者には表情やふとした行動からくみ取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課は決まっているが体調や気分によって入居者一人ひとりのペースに合わせている。基本的には本人の希望を優先し希望に沿った支援をおこなうよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方はご自分で選択できるように支援しているが、選べない方も多いため本人の意思を確認しながら一緒に決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けを入居者に手伝ってもらう場合もある。基本メニューが決まっているが、時々入居者様の嗜好品を確認し、メニューにも取柄れている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面で栄養管理についてはメニューを管理栄養士が作成。バランスの良い食事を提供させていただいている。水分補給は入居者の状態に合わせ適宜おこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアはおこなっている。要介助者は職員が対応。入れ歯は夜間漬け置き洗浄をおこなっている。必要に応じ定期的に訪問歯科を受けていただき、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々にあった時間にトイレ誘導を行うよう務めている、出来る限り自立した排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握は重要視している。また、排便コントロールについても協力病院と常に情報を共有をしており下剤の管理もおこなっている。便秘予防のみならず、出来るだけ体を動かす機会も設けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は固定しているが入居者の体調や気分により変更し可能な限り、希望に添えるように支援している。また、身体レベルに合わせて機械浴も活用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は都度意向を確認し、支援している。夜間消灯の時間は決まっているが、入居者の希望があれば眠くなるまでフロアで過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を活用し、薬の目的や副作用、用法や用量の理解している。服薬の支援と症状の変化の確認には配慮するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態・生活歴などを参考に楽しみとなるの事を一緒に探している。一人ひとりの出来る事を把握し、生活の中に役割を持って生活していただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応、家族対応、各ユニット別で外出支援はおこなっている。個別では買い物、カフェなど希望を叶えてあげられるよう努めている。ユニット別では遠方に見学、近距離ドライブを実施。気分転換を兼ねておこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ事を希望される場合には、少額での所持をお願いしている。お金を使う機会がある場合には使えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ携帯電話の所持も許可している。必要に応じ施設の固定電話でご家族との通話はおこなっている。必要あれば手紙作成の支援、郵送の支援も実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境が入居者にとって快適な空間であるように日々の環境整備にも努めている。温度や湿度なども細目に確認し、快適に過ごしやすい環境を提供出来るよう心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテレビ設置し、入居者が気軽に集まりコミュニケーションを図れる場所にしてる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が居心地の良いものになるよう、生活で使用するものについても入居前から使用され、使い慣れた物を可能であればご準備していただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能レベルに応じ援助方法なども工夫している。自立した生活を長く送っていただけるよう、必要に応じた福祉用具を選び使用していただいている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津(3F)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和7年9月1日	外部評価結果確定日	令和7年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 入居者様には健康的に長生きを目標していただき、いつまでもイキイキと施設で生活をしていただく。そのため、施設全体には拘らず、ユニット別、個人での対応を積極的におこなっていくことを方針に掲げ、入居者の笑顔が多く見られるようイベント、楽しみ時間を増やすことに力を入れている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年10月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に事業所理念にも落とし込み作成している。管理者、職員共に事業所理念を共有しながら、業務は実施している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としての地域との関わりが充分とは言えないものの運営推進会議を通し、敬老会や運動会に参加し交流の機会は増えている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献まではいかないが、認知症の方も施設では尊厳は確保され、個々にあった生活を支援していることを面会や施設で運営推進会議を開くことで直接、見て理解に役立っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告の中で入居者様の活動も報告している。自治会、民生委員の方にも参加していただき外部からの意見も聞き、サービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、入・退去の実績は報告している。運営推進会議でのケアサービスの取り組みの報告を定期的にも実施。同時に他の件についても役場の担当者と密に連絡を取り、協力関係構築に務めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の全体での身体拘束防止勉強会を開催し、全職員への理解、意識付けをおこなっている。新人の方にも管理者から説明をおこない、日頃から職員全員で同意のない拘束は虐待にあたるという事を確認し身体拘束のない介護サービスに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待防止委員会を中心に勉強会を開催し理解を深めている。外部の研修にも参加し知識をたかめ虐待防止に務めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で権利擁護に関する制度について開催されているが、一般介護職員の参加が充分には出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際には、入居者やご家族に対して「契約書」と「重要事項説明書」を読み上げ、十分な説明を行っている。入居者や家族からの不安や疑問には具体的に答えるように務めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは日常の会話から要望を聞くようにしている。またご家族からは面会時や電話での連絡時に要望等を伺うようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議の場を設け管理者も現場に入り、日常的に相談しやすい風通りの良い環境づくりを心がけている。運営的な意見を聞く場というのは特に定めていない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、人事評価するようにしている。また年に3回能力開発面談を行い、管理者・代表と個別で話す機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育として「Nは一と」事業を開催し新人教育の一環として実施している。また管理者を中心に個々に合わせたトレーニングをしている。対象者には実務者研修受講へのサポート実施も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入により同業者と交流する機会を作り、情報交換などをおこなう事でサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、管理者・ケアマネジャーが本人・ご家族の方と面談をおこない不安な事や困っている事などに耳を傾け、出来る限り本人や家族の希望を聞くようしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時に、ご家族の困っている事や不安な事に耳を傾け、受けとめるようしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の生活環境や身体状況の情報収集を行っている。その中で、本人に最も必要なサービスを見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の日常生活の中で、体調を考慮し出来ることを職員と一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的に電話での連絡をおこないご家族の方の要望を聞き、支援の変更や検討したいことなど相談を行い協力を仰ぐようにし共に本人様を支えていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた家族・知人、場所などとの関係が継続出来るよう、必要に応じ可能な範囲で支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもったり孤独にならないように関りを持つよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院等へ転院された場合でも必要に応じて相談できる体制をとれるよう努めて+D4+D49:E63		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先に考えご希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から言葉掛けし表情などからも見極め把握に努め、入居者本位のケアができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報および面談時に得た情報は入居前にケア会議で共有している。入居後に得られた情報においてもカルテを利用し情報共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の身体状況や生活リズムを理解し、本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者の心身の状態や細かな変化に気付けるよう意識し、援助をおこなっている。職員から収集された情報を基に現状に即した介護計画の作成はおこなっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践しているケア、その他個人記録の情報を職員間で共有し、入居者にとってより良いケアの提供のため、これらを活かしながら介護計画の見直しなどは役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族のニーズには常に可能な範囲では柔軟に対応しているが、家族対応が必須の場合は家族で対応していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源把握には日々の業務の中から知識として把握に努めている。地域資源を上手に活用しながら安全で充実した施設 D52+D64:E77		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明をおこない、納得の上でかかりつけ医の変更もおこなっている。また、別のかかりつけ医を希望された場合においても臨機応変に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員より得た日々の情報は、随時訪問看護師にも報告し情報共有に努めている。必要に応じ主治医へ相談し、迅速かつ適切に医療を受けられる体制で支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報共有は密におこない、入院中の入居者様の状態確認や退院時の情報提供などで支援を受けている。安心して治療を受けていただけるよう医療機関との関係作りには力を入れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針については入居時に重度化した場合、終末期の在り方(ACP)について家族に確認している。協力医療機関とも情報共有に努めている。施設生活が可能状態についても説明し方針の共有に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生における初動、応急手当含め勉強会にて知識向上には努めている。軽度な創傷については業務の中で対応方法を実践しながら身に付けていただいている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対しては年2回の避難訓練を行い非常時に対応する準備はおこなっている。地震・水害の非常時対応はBCPを基に机上・実動訓練を実施。災害発生時に業務が継続出来る知識を習得する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳とプライバシーを損なわない対応を心掛けている。基本的なマナーについても研修等を通し身につけてもらっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自由に選択できるような対応を心掛けている。言葉で意思表示が困難な入居者には表情やふとした行動からくみ取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課は決まっているが体調や気分によって入居者一人ひとりのペースに合わせている。基本的には本人の希望を優先し希望に沿った支援をおこなうよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方はご自分で選択できるように支援しているが、選べない方も多いため本人の意思を確認しながら一緒に決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けを入居者に手伝ってもらう場合もある。基本メニューが決まっているが、時々入居者様の嗜好品を確認し、メニューにも取柄れている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面で栄養管理についてはメニューを管理栄養士が作成。バランスの良い食事を提供させていただいている。水分補給は入居者の状態に合わせて適宜おこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアはおこなっている。要介助者は職員が対応。入れ歯は夜間漬け置き洗浄をおこなっている。必要に応じ定期的に訪問歯科を受けていただき、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々にあった時間にトイレ誘導を行うよう務めている。出来る限り自立した排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握は重要視している。また、排便コントロールについても協力病院と常に情報を共有をしており下剤の管理もおこなっている。便秘予防のみならず、出来るだけ体を動かす機会も設けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は固定しているが入居者の体調や気分により変更し可能な限り、希望に添えるように支援している。また、身体レベルに合わせて機械浴も活用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方は都度意向を確認し、支援している。夜間消灯の時間は決まっているが、入居者の希望があれば眠くなるまでフロアで過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を活用し、薬の目的や副作用、用法や用量の理解している。服薬の支援と症状の変化の確認には配慮するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態・生活歴などを参考に楽しみとなるの事を一緒に探している。一人ひとりの出来る事を把握し、生活の中に役割を持って生活していただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応、家族対応、各ユニット別で外出支援はおこなっている。個別では買い物、カフェなど希望を叶えてあげられるよう努めている。ユニット別では遠方に見学、近距離ドライブを実施。気分転換を兼ねておこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ事を希望される場合には、少額での所持をお願いしている。お金を使う機会がある場合には使えるよう支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ携帯電話の所持も許可している。必要に応じ施設の固定電話でご家族との通話はおこなっている。必要であれば手紙作成の支援、郵送の支援も実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境が入居者にとって快適な空間であるように日々の環境整備にも努めている。温度や湿度なども細目に確認し、快適に過ごしやすい環境を提供出来るよう心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテレビ設置し、入居者が気軽に集まりコミュニケーションを図れる場所にしてる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が居心地の良いものになるよう、生活で使用するものについても入居前から使用され、使い慣れた物を可能であればご準備していただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能レベルに応じ援助方法なども工夫している。自立した生活を長く送っていただけるよう、必要に応じた福祉用具を選び使用していただいている		